特集２

わたしから始めるごみ減量！

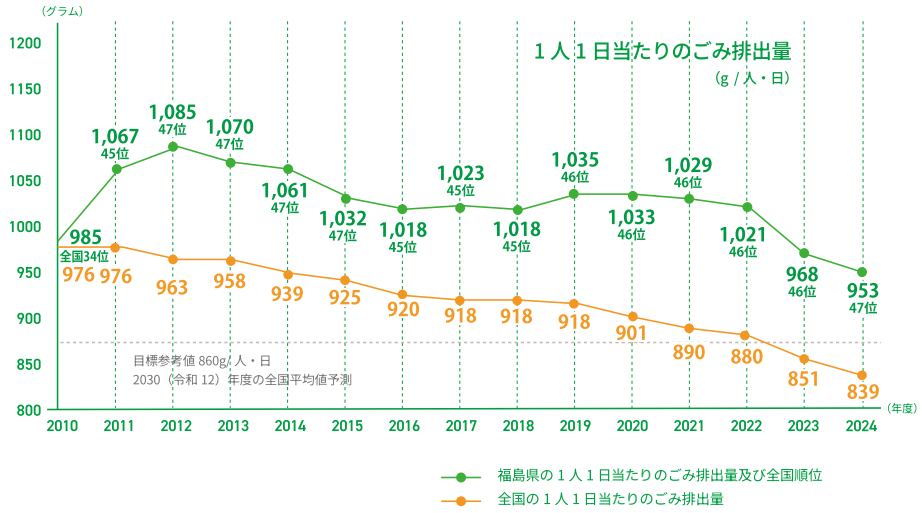
～今すぐできる一歩から～

福島県の1人1日当たりのごみ排出量は全国ワースト1位となっています。
今回は、家庭で簡単に実践できる生ごみの減量方法などをご紹介します。
家庭ごみを減らすため、今日からできる取り組みを始めませんか?

１人１日当たりのごみ排出量の推移

福島県の１人１日当たりのごみ排出量は、東日本大震災発生直後の平成23年度に大きく増加した後、令和５年度にようやく東日本大震災前の水準まで戻りましたが、それでも令和6年度時点で全国ワースト1位です。

ごみの量が増え、リサイクルされないと、私たちが利用できる資源の量が減るだけでなく、ごみを燃やす際に発生する温室効果ガスの影響で、地球温暖化が進むなどの問題があります。ごみを減らしていくためには、皆さん一人一人の取り組みが重要です。



ごみ排出量（令和６年度）

１人１日当たり
953g/日
全国ワースト１位

リサイクル率
13.5%
全国ワースト７位

リチウムイオン電池（リチウム蓄電池）の分別について



©環境省

リチウムイオン電池は、スマートフォン、モバイルバッテリーなど身近な電化製品に使用されています。強い衝撃や破損によって発熱・発火するおそれがあり、適切に分別されないまま捨ててしまうと、ごみ収集車や処理施設で火災が発生し、ごみの収集が停止するなど、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼします。

不要になったリチウムイオン電池やリチウムイオン電池使用製品は、お住まいの市町村の分別ルールに従って処分してください。また、家電量販店や小売店の回収ボックスを利用できる場合もありますので、各店舗へお問い合わせください。

詳細はこちら



©環境省

身の回りにあるリチウムイオン電池が使用されている製品

イラスト提供：消費者庁

▶充電することで繰り返し使用できるもの
▶コンセントに繋げなくても動くもの、光るもの



読者からのお便り

インフラ施設の中でも、特にダムを見学するのが大好きです。パンフレットを読んで、まだまだ知らないところもあったので行ってみたいと思いました。（50代・福島市）

みんなで実践！家庭ごみの減量

どんなごみが多いの？

県が令和5年度に行った調査では、家庭から出る燃えるごみのうち、生ごみが約35パーセント、リサイクル可能物が約14パーセントを占めていました。
日々の心がけや捨てる前のひと工夫で、これらのごみは減らすことができます。
今日からできる身近な取り組みを、ぜひ実践してみましょう。



福島県ごみ減量化リサイクル推進マスコットキャラクター「リーフィングル」

生ごみの「3つの“きり”」で減量

食材の使いきり

冷蔵庫の在庫を把握し、必要な分だけ購入し、野菜の皮や芯なども工夫して調理し使いきりを意識しましょう。

料理の食べきり

食べられる量だけを作り、作りすぎた場合は別の料理にアレンジするなどして、食べ残さない工夫をしましょう。

生ごみの水きり

生ごみの約8割が水分です。生ごみを捨てる前に三角コーナーや水切りネットでしっかり「水きり」をするだけで、ごみの減量につながります。

県では、ごみの現状や家庭で実践できるごみ減量の取り組みを紹介する特設ウェブサイトを公開しています。

ごみ減量特設ウェブサイト ▶

家庭でできるごみ減量の工夫

※令和4年度「ごみ減量アイデアコンテスト」入賞アイデア



野菜を皮付きで
調理したカレー。
調理時間の
短縮にもなります。



野菜くずなどは
水切りネットに入れて
ぎゅっとひと絞り。

《 裏表紙のアンケートにもご回答お願いします。》

ごみはルールに沿って正しく分別

「混ぜればごみ、分ければ資源!」ごみはしっかり分別し、資源としてリサイクルしましょう！
県内の一部のスーパーマーケットや各市町村などで、リサイクルBOXを設置し、資源物を回収しています。
県内のリサイクルBOX設置箇所は県ホームページに掲載していますので、ぜひご活用ください。



リサイクルBOXの活用促進について ▼

また、市町村によって、ごみの分別方法は異なりますが、「環境アプリ」を使用して、お住まいの地区を登録していただければ、ごみ分別辞典やごみ収集カレンダーを確認することができ、分別間違いやごみの出し忘れを防ぐことができます。

ぜひこの機会にダウンロードをお願いします。



福島県環境アプリダウンロードはこちら ▼

読者からのお便り

インフラとは何？ といつも思っていましたが、分かりやすく興味の持てる特集でした。読んだ後、甲子大橋に行ってみました。（50代・白河市）